

1. キャリア・コンサルタント 15周年記念講演会

キャリア・コンサルタント協会の創立から、キャリア・コンサルタント協同組合の設立へと発展し、今年はその創業から15周年に当たる。これを記念して、9月6日(土)午後明治大学リバティタワー23F、「講演会」と「懇親会」が開催され、ご来賓、組合員/賛助会員、若き起業家グループ「アントレ・ラボ」のメンバー約60人が参加して行われた。



講演会は、当日の実行委員長 藤井俊一氏の司会により進められ、最初に理事長 榎木義彦氏より当グループのこれまでの歩みについて、創業当時の苦労話なども含めて紹介(別項参照)、次いで、メイン・スピーカー 藤井義彦氏より、「エグゼクティブ・コーチに至った道」と題し、交換留学生としてアメリカで学んだ話から、鐘紡(株)時代、その在職中の米ハーバードスクール(AMP)留学、鐘紡(株)退社後日本における外資系企業のトップを務めた経験から、企業のトップの責任が如何に重いか、そのためには、どのようなことを心がけるべきかをご自身の経験を通して赤裸々にお話しいただいた。(御講演の内容は次号で更に詳しくお伝えする予定)



次いで懇親会に移り、ご来賓の中小企業団体中央会の小林氏をはじめ、多数のスピーチをいただくとともに、杯を手にしばし歓談が繰り広げられ、有意義な半日であった。

理事長ご挨拶

理事長 榎木 義彦

理事長の榎木でございます。本日はお忙しいところを、また土曜日にもかかわらず、私共の15周年行事に多数ご参加頂き、まことに有難うございます。

私共キャリア・コンサルタント協同組合は、平成5年6月私を含む5人の発起人で、任意団体のキャリア・コンサルタント協会として立ち上げました。その時大変幸運だったのは、当時まだこうしたサラリーマンが独立して事業を始めること、ましてその人達が集団を作って相補い合う組織を作る事が大変珍しい時代であったためマスコミに取り上げられまして、50人以上の方が入会され、スタートからしっかりとした基盤が作られたことです。



しかし一方では、50人もの多士オ々の独立志向の方々が、一同に会してしまったものですから大変です。「発起人の指導力不足を指摘する人」「自己の強力な個性で提案を通そう

とする人」「公的な支援に頼ろうとする人」等、様々な意見が出て収拾がつかなくなりましたが、私は発起人の代表として「加入された方全員が参加して組織の将来性を共に決めていくこと」を提唱し、10組のプロジェクトチームを作り「仕事」「勉強」「交流」の3つを柱とすることとしました。

その中でも「仕事」を求めて行く組織として「どうしても法人化が必要」ということとなり、いくつかの選択肢から「事業協同組合」を選びキャリア・コンサルタント協同組合が発足しました。平成7年8月のことです。

とは言ってもここに至るまでの外部の眼は必ずしも好意的ではなく「サラリーマン上がり」「コンサルタントが」「事業経験の乏しいものが」といった否定的な意見も多く、当初の書類申請から認可まで1年を要しました。組合組織を選択したのは、会社の縦社会から組合員の合議制と自由参加を基調とする横社会を考慮したのですが、これが組織の統率力を弱め、一部組合員の離反もあって苦しい時代を経て来たこともまた事実です。

こうした苦しい厳しい時代を経て本日 15 周年の記念の日を迎えられることが出来たのは、一重に私共の組織にお力添えを頂き、またある時は暖かく見守って下さった関係機関の皆様、私共にお客様として仕事の機会を多く与えて下さった方々、そして自らの組織に誇りを持ち、積極的に活動に参加された組合員、賛助会員各位の様々な立場からの、ご支援があつての賜と改めて深く感謝を申し上げる次第です。

一方では「シニアが作った組織は長続きしない」とも言われ、私共のキャリア・コンサルタント協同組合も「いつまでもつか」と、冷やかに見られる時期もありました。その理由は「サラリーマンの社会をそのまま持ち込み、それぞれの社風のままに行動するのでまとまりにくい」「高年齢になって始めるので根気が続かない」「メンバーの年齢的なおとろえ」等々です。私共キャリア・コンサルタント協同組合でもそれは例外ではありませんでしたが、それをお互いの努力と常に新しい会員を入れて新陳代謝をはかることで何とか乗り越えてきました。

本日の 15 周年行事は私共にとっては決して目的地ではなく、新たな挑戦への出発点と考えております。私を含め創立時からのメンバーは少なくなっており、20周年、25周年を迎える時にこの場にいる者は少なくなっているかも知れませんが、キャリア・コンサルタント協同組合の組織そのものは強く、たくましく成長し、世の中に貢献し存在感のあるものにして行くべく、この志を継ぐ次世代の人達を誘い、育ててまた「さすがキャリア・コンサルタント協同組合」と言わしめるような事業を開拓して行きたいと考えております。

そのためにも本日お集まりの方々のご参加、ご支援は不可欠です。大変勝手ながら、このことを重ねてお願いし、私のご挨拶とさせていただきます。